

アクティブ・ラーニング特論 I

科目ナンバリング EDU-214
選択 2単位

町支 大祐

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、アクティブラーニング特論 I (春期)・II (秋期)を通じて、アクティブラーニングを重視した授業が実践できるようにすることをねらいとします。

アクティブラーニング特論 I (春期)では、最初に、アクティブラーニングが重視されるようになった社会的背景や、学習に関する理論の学習から始める。次に、様々な手法やツール(ICT含む)を用いた実践を体験し、最終的には受講者らがそれらを用いた授業実践(模擬授業)を試みるところまで行う予定です。

アクティブラーニング特論 II (秋期)にも、同様にアクティブラーニングを重視した授業実践を課しますが、同時に、教員のアクティブな学びについても学習します。具体的に言うと、協働的な授業づくりや、その実践の振り返りと評価、それらをいかした授業改善などについても行う予定です。

授業実践以外でも、積極的に対話やグループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れて進めていく予定です。

2. 授業の到達目標

- ・アクティブラーニングが求められるようになっている背景や、アクティブラーニングに関する理論について理解し、論じることが出来ます。
- ・アクティブラーニングに関する手法とツールについて理解し、説明することが出来ます
- ・上記の手法やツールを活用しながら、適切に授業を設計し、効果的な授業を実践することが出来ます。

3. 成績評価の方法および基準

- ・各回におけるアクションペーパー等の提出課題(40%)
 - ・模擬授業の成果に対する評価、授業づくりに関する貢献度の評価(30%)
 - ・最終レポート課題(30%)
- 一部にピア評価(学生間の評価)も取り入れます

4. 教科書・参考文献

教科書

特定の教科書は用いない。必要な文章等は適宜配布する。

参考文献

山辺恵理子ら 『人はもともとアクティブラーナー』 北大路出版

ダグラス・フィッシャーら 『「学びの責任」は誰にあるのか 責任の以降モデルで授業が変わる』 新評論

その他については適宜紹介する

5. 準備学修の内容

授業時間外にも、次回への準備作業などが発生します。特に、授業づくりに関してはそういった時間が多めに発生します。

6. その他履修上の注意事項

アクティブラーニング特論 II (秋期)を受講する場合は、できれば本授業も受講してもらいたいです。

7. 授業内容

- 【第1回】 (予定は、人数等によって変動します)
オリエンテーション
自己紹介および、授業の概要・進め方、評価方法等について確認します
- 【第2回】
アクティブラーニングについてみなさんがどのような認識を持っているかを整理します
アクティブラーニングが求められるようになっている背景について確認します(1)
- 【第3回】
アクティブラーニングの視点を重視したワークを体験します(1)
アクティブラーニングが求められるようになっている背景について確認します(1)
- 【第4回】
アクティブラーニングの視点を重視したワークを体験します(2)
アクティブラーニングに関する理論について学びます(1)
- 【第5回】
アクティブラーニングの視点を重視したワークを体験します(3)
アクティブラーニングに関する理論について学びます(2)
- 【第6回】
ICTを用いた授業づくりを体験します(1)
アクティブラーニングを重視した授業づくりを行います(1)
- 【第7回】
ICTを用いた授業づくりを体験します(2)
アクティブラーニングを重視した授業づくりを行います(2)
- 【第8回】
アクティブラーニングを重視した授業づくりを行います(3)
- 【第9回】
アクティブラーニングを重視した授業づくり:中間報告
- 【第10回】
アクティブラーニングを重視した授業づくりを行います(4)
- 【第11回】
アクティブラーニングを重視した授業づくりを行います(5)
- 【第12回】
模擬授業を行います(1)
- 【第13回】
模擬授業を行います(2)
- 【第14回】
模擬授業を行います(3)
- 【第15回】
本授業のまとめを行います